

強い農業づくり交付金（産地競争力の強化）

畜産課

強い農業づくり交付金（産地競争力の強化）の概要

1 強い農業づくり交付金について

近年の消費・流通構造の変化に伴い、存在感を増す外食産業等のニーズに国産農畜産物が対応しきれなくなったことによる輸入農畜産物の急速な代替等の問題が顕在化している。このような状況に対処するため、食料・農業・農村基本法に基づき策定された「食料・農業・農村基本計画」により、消費者・実需者ニーズを踏まえた国産農畜産物の安定供給体制の構築を図るため、産地としての持続性を確保し、収益性を向上するための取り組みの推進、安全・安心で効率的な市場流通システムの確立等に取り組むことが最重要課題となっている。

このような課題に対処するため、強い農業づくり交付金は、農畜産物の高品質・高付加価値化、低コスト化等、地域における生産から流通・消費までの対策を総合的に推進するものである（強い農業作り交付金実施要綱 第1 趣旨より抜粋）。

2 オンダン農業協同組合が今年度に取り組む事業概要

- ・メニュー 畜産物共同利用施設（食鳥処理施設）の整備
- ・国交付率 国 1／2，事業主体 1／2
（農畜産物輸出に向けた体制整備の取組であるため優先的に採択）
- ・成果目標 受益農家の出荷羽数
輸出向け出荷量

阿波尾鶏は、日本で初めて「地鶏肉JAS」として格付けされ、地鶏肉として日本一の生産量を誇る本県ブランド品目である。しかし「阿波尾鶏」の国内外産地間競争力及びブランド力を強化するためには、海外輸出等の体制整備が必要である。

一方、オンダン農業協同組合は、ブランド品目「阿波尾鶏」を生産し、平成22年度から本格的な海外輸出も展開している。しかしながら、食鳥処理施設の自動中抜き施設が大型化した阿波尾鶏の鶏体に対応できていない（モモ肉解体処理を手作業でフォローせざるを得ない）。そこで、新たに①中抜き施設（モモ肉脱骨機）を導入し、人的汚染リスク低減、作業効率向上を図る。また、ムネ肉は、②食鳥肉加工施設（成型機）を導入し、食味を飛躍的に改善させて消費拡大を図り、余剰ムネ肉在庫調整に向けた生産の制限を解消する。これら増産に伴う排水については、安定的な浄化処理を継続するため、新たに③流動床式接触酸化槽を設置する。

[整備内容]

事業内容	規 格 等	事業	事業費	国費	事業主体
畜産物共同利用施設整備（食鳥処理施設）	中抜き施設（脱骨機900本/時間）	2台	千円 164,360	千円 76,092	千円 88,268
	食鳥肉加工施設（成形機60ショット/分）	1台			
	環境保全施設（浄化処理施設：136m ² ・処理水794t/日）	1式			

・着工及び竣工予定時期：平成26年8月～平成27年3月

・成果目標

（１）出荷羽数の増加：400万羽/年→460万羽/年 15%増加

（２）阿波尾鶏海外輸出向け出荷量の増加：

2,960kg/年→10,000kg/年 237.8%増加

○新 平成26年度強い農業づくり交付金(産地競争力の強化)

「阿波尾鶏」の海外輸出及び増産に向けた解体処理効率化
・鶏肉品質向上等のための食鳥処理施設整備を推進

事業費:164,360千円

国庫補助金:76,092千円

＜脱骨機＞
解体処理効率化
衛生的リスク軽減

- 処理羽数増加
- 需要多い
モモ肉増産可能



需要の少ないムネ肉は？

＜成型機＞
ムネ肉高品質加工
ムネ肉消費拡大

- ムネ肉食味向上
- 余剰調整の
羽数制限が解消



増産に伴う排水はどうする？

＜浄化処理施設＞
増産に伴う排水の
安定的な浄化处理

浄化処理の安定化



阿波尾鶏海外輸出量・
出荷羽数の増加！